

真壁小学校教育発祥之地碑

桜川市真壁町真壁198（真壁伝承館北側）

桜川市真壁町、旧真壁郡真壁町の中心部のあたりに真壁伝承館があります。その北側の小さな広場に一基の記念碑が建っています。これが「真壁小学校教育発祥之地碑」です。

明治6年（1873）6月、旧笠間藩の真壁陣屋を使って「真壁小学校」が創立されました。真壁陣屋は、真壁藩2代目の浅野長重が元和8年（1622）に笠間藩に加増移封となった際に真壁領を統治するために建てたものです。その後、浅野氏は正保2年（1645）に赤穂藩に移封となり、井上氏、本庄氏、井上氏、牧野氏が笠間藩主となり幕末を迎えます。ちなみに赤穂藩に移った浅野氏は後に長重の曾孫にあたる第3代藩主浅野内匠頭長矩が元禄14年（1701）に江戸城本丸松の廊下で吉良上野介義央を切りつけた、いわゆる「赤穂事件」を起こし、改易となってしまいました。

明治18年（1885）11月には、新校舎が造られました。小学校の敷地面積はおよそ6032平方メートルであったと伝えられています。真壁小学校は、明治16年（1883）には高等真壁小学校、明治25年（1892）に真壁町立真壁尋常小学校、明治42年（1909）に真壁町立尋常高等小学校と改称し、昭和2年（1927）5月には真壁町大字田の地に移転しました。

跡地は昭和49年（1974）まで、47年間にわたり真壁町役場が置かれました。その間、昭和52年（1977）に、小学校の尋常科を最後に卒業した有志により、この碑が建てられました。役場が移された後には、平成21年（2009）までは、真壁中央公民館や真壁中央公園、歴史民俗資料館などの敷地として使われ、平成23年（2011）には、老朽化の解消や真壁町、岩瀬町、大和村が合併し、桜川市になる際の合意事項としての多目的複合施設の建設を目的に公民館、図書館、資料館の機能を有する「真壁伝承館」が造られました。



茨城教育 第八八〇号

令和八年二月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和一 一三五六一二

電話 〇二九一三二一一七四七

印刷所 有限会社山田鞆印刷所